

カッコソウ協議会 通信

第15号

令和7年12月26日発行



■発行/カッコソウ協議会 ■事務局/桐生市都市整備部公園緑地課自然観察の森

(桐生市川内町2丁目902番地の1) ☎ (0277) 65-6901

■ 企業向け啓発活動

令和7年4月25日（金）、昨年度に引き続き、桐生信用金庫の新入職員を対象とした研修の一環として、桐生自然観察の森でカッコソウ保全活動を実施しました。午前は、カッコソウに関する講義を実物観察も含めて行いました。午後は、園内のオオムラサキの森にて、移植地の整備作業として、カッコソウを植えられるように耕し、移植を行い、食害防止用の柵で囲いました。カッコソウへの関心を大いに高めるとともに、グループ作業により参加者間の親睦もより深まったようで、有意義なものとなりました。



実物を観察しながらの室内講義



カッコソウの移植作業体験



活動最後に集合写真

■ 総会

令和7年4月13日（日）、桐生自然観察の森にて「令和7年度カッコソウ協議会総会」を開催しました。当日は、総会前に桐生信用金庫様からの寄付金贈呈式を行いました。10万円のご寄付をいただきました。今年度で10回目のご寄付となります。

総会は、令和6年度事業報告及び収支決算報告、令和7年度事業計画（案）及び収支予算（案）等の議題を審議し、原案通り全議案が承認されました。

また、西廣淳委員（国立環境研究所気候変動適応センター副センター長）より、学識者の立場からの講話をしていただきました。「希少生物や生物多様性に対する考え方方が変化し、企業の社会的責任や地域独自の資源・個性に対する関心が深まりつつある。

カッコソウを守っていくためには、カッコソウそのものだけではなく、生息環境（鳴神山）も守る必要がある。自生地で保全していくことが理想であるが、将来的には別の場所に集約して種を維持していくことも想定する必要がある。カッコソウを守ることが、地域の魅力向上及びそれに携わる担い手（企業も含めて）のイメージ向上へ繋がる雰囲気を醸成していくと良い。行政の体制としても、一つの部局で対応できる問題でないので、環境・観光・教育等の様々な分野の部局が協力していく必要がある。」旨の内容に、出席者からは、「地域住民の幼い頃からカッコソウについて意識させていくことの大切さを改めて感じた。」等の感想がありました。



寄付金の贈呈



総会



西廣委員（右）による講話



カッコソウ啓発活動



<カッコソウ展示>

桐生市及びみどり市内で、啓発パネルとカッコソウ鉢植えの展示を行いました。（令和7年4月11日（金）～4月18日（金））

・展示場所

桐生市：桐生市役所本庁舎、新里支所、黒保根支所、市立図書館

みどり市：みどり市役所笠懸庁舎、大間々庁舎、東支所

桐生信用金庫：本店営業部、相生支店



桐生信用金庫本店営業部

<小学校4年生への下敷き配布>

桐生市立及びみどり市立の小学校4年生全児童へカッコソウ啓発用の下敷きを配布しました。（桐生市：598枚、みどり市：357枚）



<啓発展示>

桐生市内のイベント開催時に、啓発パネルとカッコソウレプリカの展示を行いました。

・「あつまれ SDGs！」（令和7年10月26日（日） 新川公園）

・「かわうち文化祭」（令和7年11月8日（土）・9日（日） みやま園）

<カッコソウ観察会>

令和7年4月6日（日）、桐生自然観察の森において、カッコソウ観察会を開催しました。17名の参加者が園内移植地に咲いているカッコソウを見て、その美しさに喜んだり、保全の大切さについて理解していただきました。



<カッコソウ環境教育>

桐生市立梅田南小学校4年生（令和7年3月19日（水））、群馬県立桐生高等学校1年5組（令和7年9月16日（火））を対象に、「カッコソウを守ろう」と題した出前講座を実施しました。

令和7年11月14日（金）、桐生市立川内小学校の4年生に、カッコソウの株分け・移植作業を桐生自然観察の森で体験していただきました。地元の希少植物であるカッコソウに直接見て触れることで、児童達は作業を楽しむとともに、大切さを実感したようでした。